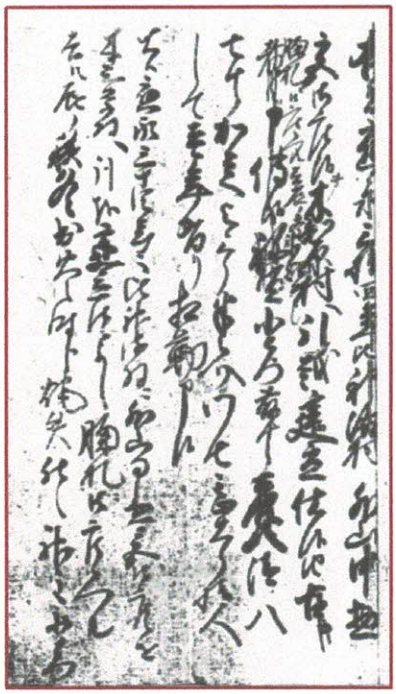
田社神社＊其の二

木知原の今昔！

10：5・3・31

≪前号絵図帳より抜粋≫



右は**応永参拾四年**比神海村外山中惣宮御座候ヲ木知原村江引越建立仕候由古キ胸札ニ　御座候へ共去る辰の冬焼失申候神主小右衛門、藤十郎、彦八、清八、七十老、加兵衛、与三郎、半之助、門七、勘太郎拾人して壱年替り相勤申候
右ハ応永三十四年の比神海村ニ外山中惣宮御座候ヲ木知原村へ引越建立・仕候よし胸札ニ御座候へ共去ル辰ノ冬出火之時分消失仕候　　神主小右衛門

神社創建

田社神社は600年以前の**応永三十四年（1427年）**に神海村から引っ越し創建とある。棟札にも記録されているが理由は述べられていない。

神社は元禄元年（1688年）に焼失したが翌年に再建され、世話係は小右衛門はじめ10名が一年替わりで勤めるとある。

社名由来等の記録は無いが**田社**とは**神田**を**賜る**社と同格社しか使えない名であり格式高い神社の証である。

祭神は分霊と言って多くは本社の祭神の霊を分けたものを祀っている。田社神社四社の祭神は下記の通りである

- 中立・**田社大明神**　「祭神-天之小八根命」（天の岩戸を開けた神）
- 左立・**八幡神社**　「祭神-応神天皇」（子孫繁栄・五穀豊穣）
- 右立・**天神神社**　「祭神-菅原道真」（学問-平安時代公卿学者）
- 下位・**小唐大明神**　「祭神-天照大神」（五穀豊穣・家内安全）「神明神社」

御鍬神社がいつ祀られたがは不明であるが、次号で紹介の明治10年の神社絵図にも見られないのでそれ以降と思われる？

天の岩戸の前に鳥(神)
この鳥「神」のとまる場所が鳥居（語源？）

灯籠や**狛犬**は神社の必需品と思うがこれらは寄進によるものが一般であり、木知原も何百年の間に多くの寄進を受けて現在の境内が出来上がってきたのである。

上位の東端の灯籠は延享2年（1745年）に村で祀っており珍しい。明かり窓も「太陽と月」で“**祭神様をいつでも365日24H お照らししますよ**”という意味の窓で神社に多く見られる。

ひと息

鳥居とは、神様の**使者**（鳥）が止まるところ。
ここからは神聖な神の屋敷であるという境界を示す

参道の砂利は砂利を踏む音を聞きながら一歩一歩**邪気を払い**本殿に着くまでに魂を清める道。

Q 神様に榊（さかき）
Q お神酒にスギ葉
Q 拍手（かしわで）
Q お伊勢さんのお札

「？4問」今更聞けない？…信仰の世界には神話や伝説は付き物です。だからと言って軽視するのではなく、折節に神話や伝説を楽しむことも今を知る上での学びの一つと思います。身の回りの暮らしを見渡せば今もいろいろな神話や伝説の世界に生きているとは思いませんか。

（何とか10号まで辿り着きました。もうひと頑張りと思っていますので耳寄りな情報ありましたら是非ご寄稿ください）